

テーマ：『 自然事象の性質や規則性を活用する子どもを育てる理科学習の展開 』

うきは市立 千年小学校

Tel. 0943-75-2865 担当者：樋口 則之



■実践内容:

(写真上左)3年生の児童が、モンシロチョウを自分で育て、モンシロチョウは、「卵→幼虫→さなぎ→成虫」といった成長の順序があることや成虫の体は「頭、胸、腹」の部分からできていることなどを興味をもって観察できた。

(写真上右)4年生の児童が、自作の扇風機を乾電池1個につないだときと2個の直列、並列つなぎにしたときとの回り方の変化を比較したり、流れる電流の強さを電流計を用いて回り方と関係づけたりして、主体的に観察・実験できた。

(写真下左)4年生の児童が、水は熱した部分が上方に移動して全体が温まっていくこと(対流)を、熱源の位置を水槽の底や、真ん中に変化させて、主体的に観察・実験できた。

(写真下右)5年生児童が、魚は水中の小さな生物を食べて生きていることを、身近な池の水を採取して、顕微鏡を使って観察することができた。

■実践成果:

児童一人一人が、自然に親しみ、そこで見出した問題に対して、予想や仮説をもって、観察・実験を工夫し、実験結果を整理・考察することで、自然のきまりを見出すといった、自ら問題解決していく能力が少しずつ身に付いている。

■実践ポイント:

系統性のある学習や同じ単元の前時までの学習で身に付けた知識・技能を振り返らせ活用させて、観察・実験の見通しをもったり、観察・実験を実施したり、結果の整理・考察したりできるようにすること。